

まほろば【校長室だより】

[文責]

校長 江口 尋信

タブレットの持ち帰りについて

昨日のおたよりでお知らせしましたが、10月24日（金）から、毎週末に、3年生以上の子どもたちがタブレットを持ち帰り、家庭でAIドリルに取り組めるようにします。（5年生は31日から）目的は、家庭学習の習慣化です。

中学校・高校では、テストの方法が変わることで、家庭学習の仕方が大きく変わります。小学校では单元ごとにテストをしますが、中学校・高校では決まった日程で中間テストや期末テストが実施され、テスト範囲がかなり広がります。このことにすんなり対応できる子どもたちばかりではありません。具体的には、次のことが難しくなります。

○ ゴール（テスト等）を見据えて計画的に学習すること

「いつ」「何を」学習するのか、子どもたちが自分で管理することになります。1日の中で学習する時間を見つけ、学習内容を決めることができる力を、小学生のうちから少しずつ育てていく必要があるということです。決して受験対策をやろうとしているわけではありません。1日の生活の中に「学び」が位置づくことは、大げさに言えば、人生を豊かに生きることにつながるのではないかと思います。土日の宿題として、「AIドリルを○分しなさい」とか、「○○（教科）のAIドリルをしなさい」といった指示は極力しません。保護者の皆様には、家庭学習の習慣化を念頭に、励ましや称賛の声かけをお願いします。

心に残る「言葉」

先週、外尾悦郎氏の講演（演題は「志す」）を拝聴する機会がありました。外尾氏は、福岡市出身で、スペイン・バルセロナにあるアントニ・ガウディが設計した「サグラダ・ファミリア」の彫刻家として、多くの作品を手がけておられる方です。テレビ番組「博士ちゃん」で、芦田愛菜さんと対談をしたので、テレビを観て知っているという方も多いのではないかと思います。

外尾氏の言葉一つ一つに重みがあり、2時間近い講演があつという間に終わりました。その中で、子どもの教育や子育てに携わっているわたしたちにとって道標となるお話を一つだけ紹介します。

完璧な人間をつくろうとしないこと。誰も完璧ではない。子どもたちは一人一人別々の存在であり、無限の多様性がある。そのことを喜び、感謝しましょう。そして、許しましょう。生きていることには、苦悩が伴い、子どもも人生の真ん中にいて、多くの苦悩を抱えている。その子は、世界で唯一の存在であり、その子が何を感じ、何に涙しているのか考えましょう。

わたしたちは、子どもをみんな同じだと考えがちです。しかし、外尾氏は、「同じことを教えても、子どもの中に広がる世界は一人一人違う。その世界を理解しようとするのが大切なのではないか。」と、違いを前提に、子どもをありのまま捉えようとしています。外尾氏の話はわたしのメモに基づいたもので、解釈もわたしの解釈なので、外尾氏の意を汲めているかはわかりませんが、考えさせられました。違いを揃えるのではなく、違いを理解する。大変難しいけれど、大切なことのように思います。